

郡小学校区

郡小学校区 ワークショップ実施概要

テーマ	郡校区の今とこれからの担い手でまちづくりを考える		
実施内容	第1回	令和元年 11 月 22 日（金）19 時-21 時	31 人
		郡のまちのこれから編 「グループで話し合う現在と未来のまちについて」	
	第2回	令和 2 年 1 月 22 日（水）19 時-21 時	30 人
		組織運営・若者の参加編 「次の担い手が参加しやすくなるまちづくり」	
	第3回	令和 2 年 2 月 5 日（水）19 時-21 時	24 人
		解決策を考える編 「1、2回の課題について解決法を考えてみる」	
結果概要	○広報のあり方について ・SNS や LINE を使った広報→地域の若者が講師で高齢者が生徒となる。 ・回覧板→目次をつけるとわかりやすい。 ・地域情報誌→団体の紹介やスケジュールの掲載が必要。全戸配布、HP の作成 ○交流の場・イベントについて ・イベントの打合せは食事しながら、会議終わりの飲み会やイベント後の打ち上げ →こおり食堂（多世代交流の場） ・行事役員の紹介→役員さんの顔を掲載した案内 ・行事カレンダーの作成、時期の見直し ○その他 ・郡の「ゆるキャラ」をつくる。ひまわりを題材とした「ゆるキャラ」 ・地域のイベントにキャッチコピーをつける。		
来年度以降 に向けて	・回覧板など各種広報物についての見やすさ、読みやすさ検討 ・SNS を使った発信や勉強会の実施 ・会議やイベント後の懇親会など、無理のないつながりの場の検討 ・若者、若いお父さんの巻き込み方の検討→若い方中心の部会をつくる。 ・有償ボランティアのあり方を検討する。		

【WSの様子：写真】

第1回



第2回



第3回



郡校区ワークショップ まとめ

全3回のワークショップの内容

日時	テーマ	内容
令和2年11月22日 19時～21時	郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来の まちについて	郡の現状と未来を話し合います。 暮らしのなかでの困りごとや気になるこ とを話す現状と郡がこうなってほしい・ こうなったらいやだを想像して話す未来。 どのようなことを感じているのか、たく さんの意見を出していただく場です。
令和2年1月22日 19時～21時	組織運営・若者の参加編 次の担い手が参加しやすくなる まちづくりについて	若手世代(50歳以下)のみなさんと現役世 代(50歳以上)のみなさんにグループをわ け、シーン別に若手が参加しにくいと思 う状況や工夫を話し合います。 若手が参加しやすいまちづくりを考えて いきます。
令和2年2月5日 19時～21時	解決策を考える編 1、2回目の課題について解決法を 考えてみる	2回目に出てきたみなさんの意見をもとに、 テーマを設定しました。実施するときに 必要になってくるヒトやモノについても 検討し、より具体的な取組とします。 はじめの一步を決めていただき、行動し やすくします。

- ・ 1、2回目は若手世代(50歳以下)のグループ・現役世代(50歳以上)グループにわけて実施
- ・ 3回目は世代関係なしのグループで実施

郡校区ワークショップ

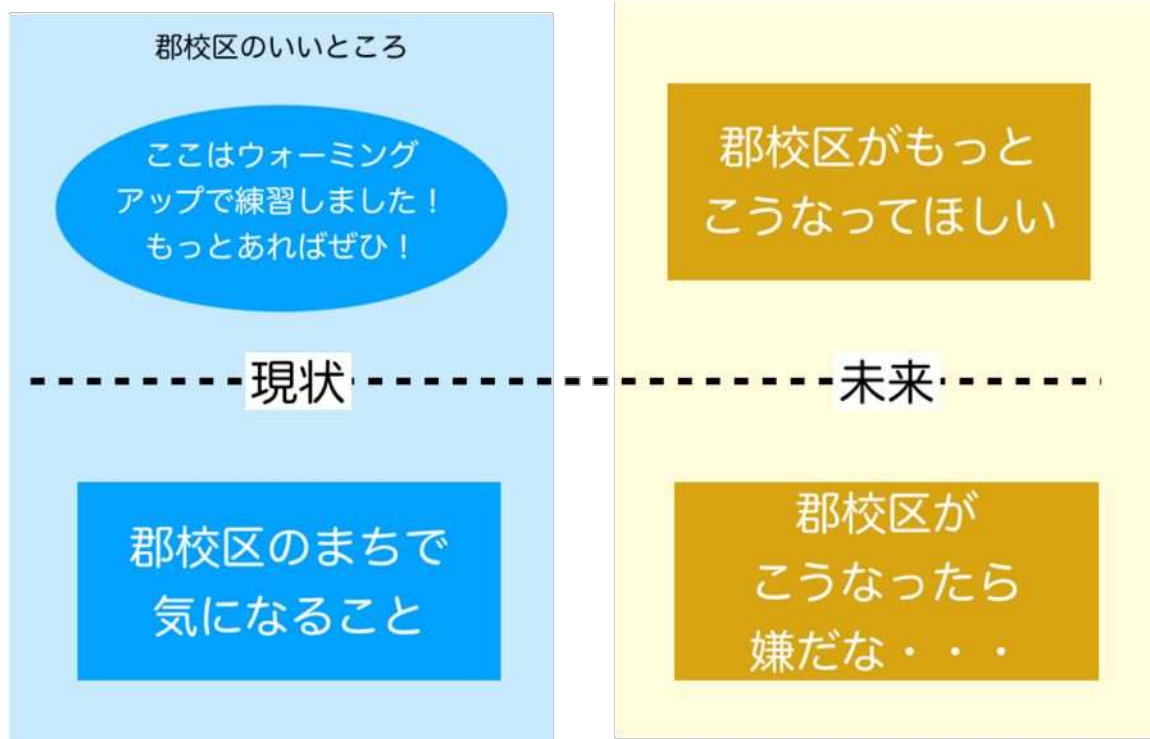
第Ⅰ回の概要

郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて

郡の現状と未来を話し合うをテーマに、暮らしのなかでの困りごとや気になることを話す現状と郡が「こうなってほしい・こうなったらいやだ」を想像して話し、日頃どのようなことを感じているのか、たくさんの意見を出していただく話し合いを行いました。

第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて

郡校区の現状を共有する：「気になっていること」「まちの困りごと」、「まだできていないこと」
郡校区の未来を共有する：郡校区のよりよい未来のすがたはどんな姿？



第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて（グループ別）

郡校区のいいところ

- ・ 神社、田園、緑が豊か
- ・ 行事に積極的、自発的
- ・ 子どもの育つ環境づくり、子どもの見守り
- ・ 放課後教室が毎日ある
- ・ 年配の方が自治会長をされていて元気
- ・ 近隣とのコミュニケーションが活発
- ・ 地域のネットワークが強い
- ・ 文化祭の作品が多い
- ・ 祭が活発

現状

- ・ 車や自転車の運転マナー
- ・ 街灯が少ない、暗い箇所がある
- ・ 道が狭い、危険箇所がある
- ・ タバコのポイ捨てが多い
- ・ 一人暮らしの高齢者がこもりがち
- ・ 介護施設が少ない
- ・ 放課後教室の参加者が減っている
- ・ 自治会役員の負担の増加
- ・ 役員の仕事がわからない

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・ 楽しいイベントがもっとあってほしい
- ・ 自治会の全戸加入
- ・ 防災、避難所が増えてほしい
- ・ 年配の方の健康寿命が伸びてほしい
- ・ イベントのできる公園をつくってほしい
- ・ 役員さんがもっと楽になる仕組み
- ・ 役員のなり手がスムーズに見つかる仕組み
- ・ 車、自転車のマナーが良くなってほしい

未来

- ・ 特になし

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて（グループ別）

郡校区のいいところ

- ・ 静かで安全な環境
- ・ 人のつながりが強い
- ・ 自然が豊か
- ・ 自治会活動が活発
- ・ 神社が立派なものがある
- ・ 弁天様の花火がよく見える
- ・ バスツアーがたくさんある

現状

- ・ 少子高齢化が深刻に感じる
- ・ 池が多くて危ない
- ・ 地域によってバス停が遠く不便
- ・ 交通量が多くて危ない
- ・ 自転車が多くて危ない道路がある
- ・ 自治会に新しい方に加入して頂けない

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・ お店がもっと増えてほしい
- ・ 挨拶、声かけが盛んな地域になってほしい
- ・ 高齢者があつまれる場
- ・ 若い人たちがあつまれる場
- ・ 道幅をもっと広げてほしい
- ・ マイクロバスを通してほしい

未来

- ・ 自然が減っていく
- ・ 児童が減少し学校が閉校される
- ・ 空き家が増加していく
- ・ 親と子どもの別居が増える
- ・ 地域活動に関心が無くなり参加者が減る
- ・ 活気が無くなっていく
- ・ 渋滞が増える

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて（グループ別）

郡校区のいいところ

- ・ 自然が多い
- ・ 歴史のある街
- ・ 子どもがしっかり挨拶できる
- ・ 放課後教室が活発
- ・ 地域行事が活発
- ・ 交通事故が少ない
- ・ 地域力がある

現状

- ・ 防災意識が薄い
- ・ 自然災害の心配が増している
- ・ 校区が広くてカバーできない
- ・ 道路や交通の問題が深刻
- ・ 役員候補と加入率の減少

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・ 公園をもっとつくってほしい
- ・ 自治会館の数を増やしてほしい
- ・ 道路をしっかり整備してほしい
- ・ 助け合いの心を育む
- ・ 住みたいと思える街になってほしい
- ・ 次の担い手が豊かになってほしい
- ・ 子どもが増える街

未来

- ・ まちの担い手がいけない街
- ・ 子どもが減っていく
- ・ 地域行事が無くなっていく
- ・ 知らぬふり、無関心の増加
- ・ 交通渋滞の増加
- ・ 自治会加入率の低下

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて（グループ別）

郡校区のいいところ

- ・ 元気な高齢者が多い
- ・ 若い人が少しずつ転入してくる
- ・ 静かで住みやすい
- ・ 周りに必要なものが揃っている
- ・ 終の棲家になっている
- ・ 防災訓練に力を入れている

現状

- ・ 自治会の運営に課題が多い
役員が回ってくると辞めてしまう方もいる
当番をやらずにメリットだけうけたい方
自治会に入るメリットが見えない
活動者がいつも同じになる
課題をもっている人の情報が入ってこない
- ・ 高齢者の楽しめる場が少ない
ひきこもりがちになってしまう

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・ 防災と高齢者問題を考えていく場
- ・ 子どもを連れて地域行事に参加できる
- ・ 若い人の思いを聞く場
- ・ どこかで誰かとつながれている街
- ・ 好きなことや趣味でつながる街
- ・ 住んでよかったと思える街
- ・ 行事の負担を少なくしたい

未来

- ・ 特になし

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて（グループ別）

郡校区のいいところ

- ・ 子どもの見守り体制がある
- ・ ボランティア活動が活発
- ・ つながり、自治会の仲がいい
- ・ 自然が豊か
- ・ イベント、集まりへの参加が多い
- ・ 挨拶ができる関係がある
- ・ 放課後教室がありがたい

----- 現状 -----

- ・ つながり、挨拶ができる関係のうすれ
- ・ 自転車、車の交通問題、マナー
- ・ 防災活動への意識が低い
- ・ 防犯カメラが少ない
- ・ 少子高齢化
- ・ 自治会の加入者減少
- ・ ゴミやタバコのマナー

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・ もっと街で仲良くしたい
- ・ 挨拶ができる関係性
- ・ 高齢者と子どものコミュニケーション
- ・ 参加できる行事が多い
- ・ 車のマナー改善
- ・ 子どもと同居できる街
- ・ 集まれる場がたくさんある街

----- 未来 -----

- ・ 環境が維持されない
- ・ 戸建てがなくマンションばかりが増加する
- ・ 若者の視点や意見を邪魔する街
- ・ 自治会のあり方が変わらない
- ・ 災害が頻繁に起こる
- ・ まちや人への関心がなくなる

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

第1回目 郡のまちのこれから編 グループで話し合う現在と未来のまちについて

郡校区のいいところ

- ・ 自然が豊かである/暮らしやすい環境
- ・ 子どもの見守り活動が活発
- ・ 年配の方が元気
- ・ 自治会、地域行事(祭)が活発
- ・ 放課後子ども教室がありがたい
- ・ 近隣とのコミュニケーションが活発

----- 現状 -----

- ・ 街灯が少なくて暗い、交通量、交通マナー
- ・ ひとり暮らしの高齢者、引きこもりがち
- ・ 放課後教室の子どもが減ってきている
- ・ 自治会、こども会の役員の高齢化、不足
- ・ 新しい方の自治会への参加が少ない
- ・ 活動がいつも一緒になってしまう

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・ 年配の方がいきいきと健康なまち
- ・ 好きなことや趣味でつながる環境
- ・ 子連れで参加できるようなイベント
- ・ 役員の負担が減るような運営方法の模索
- ・ 自治会に全戸加入してほしい(より平等に)
- ・ 若い人が集まる場所がもっとあってほしい
- ・ 公園がもっと増えてほしい
- ・ 防災の課題、避難所がもっと増えてほしい
- ・ 住みたいと思えるまちになってほしい

----- 未来 -----

- ・ 地域活動や人に無関心なまち
- ・ 自治会のメンバーが固定化されるようなまち
- ・ 担い手がないまち
- ・ 子どもが減ったり、学校がなくなっていくまち
- ・ 地域の行事が理由なく減っていくようなまち
- ・ 若者の視点や意見を邪魔するようなまち

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

赤文字は各テーブル共有しているもの

郡校区ワークショップ

第2回の概要

組織運営・若者の参加編

次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて

若手世代(50歳以下)のみなさんと現役世代(50歳以上)のみなさんにグループをわけ、シーン別に若手が参加しにくいと思う状況や工夫を考えていくことで、若手世代が参加しやすいまちづくりを考える話し合いを行いました。

第2回目 組織運営・若者の参加編 次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて(グループ別)

	状況	工夫
広報	・ 回覧版が回らない ・ 一方通行のコミュニケーションが多い ・ アナログな印象を受ける ・ 事後報告が多い	・ 回覧版だけでなく、チラシの全戸配布の仕組みを利用する ・ SNSを利用する
会議	・ 若者にとって、参加しなくても困らない内容になっている ・ 共働きのため、昼間の会議には参加しづらい ・ 参加者のバランスとして男女比に偏りがある ・ 決まったことだけを伝えることが多い	・ さまざまな意見を受け入れられる場にする ・ 参加者が必ず発言できるように進行する ・ 細かくアンケートをとる
イベント	・ 若者が興味を持つイベントが行われていない ・ 限られた人だけで運営している ・ 終日のイベントは参加が難しい ・ 小さい子どもと一緒に参加できるイベントが少ない	・ お金を使ってイベントを増やす ・ 子どもたちが参加できる行事を増やす ・ 学びの場を多くつくる ・ 各種団体が連携・協力する
その他	・ 若い人（親）同士の話し合いがほとんどない ・ 独身者が多い ・ 若い人がどこにいるのか把握できていない ・ メンバーの多様性に欠けている ・ 惰性で続けている印象がある ・ 年長の方に叱られることが多い ・ 一度入ったら抜けられないイメージがある ・ 行事が続くとしんどい	・ 若者の意見を受け入れる。忍耐強く見守る。 ・ 自分の家族と同じように優しく接する ・ 一人に役が集中しないようにする ・ 懇親会などを開催し、横のつながりを強くする ・ 自主防災組織を立ち上げ、参加してもらう

第2回目 組織運営・若者の参加編

次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて(グループ別)

	状況	工夫
広報	- 内容がかたく、面白くない - 自治会などと日常的につながりがなく、お知らせを見てもわかりにくい	- 文字を少なく、写真を多く - クイズ、写真を多用 - 見た目重視 - インスタ映え - 見本を持参する
会議	- かみくだいた説明がないため、内容がわからない - 会議時間が長い - 時間帯が合わない - 議題が分からず、当日になる - 意見を言うのと役をもらってしまう	- 時間を短く、内容を先に知らせる - 終了時間を決める - 集めれる時間帯を設定 - 和気あいあい - 負担軽減
イベント	- 準備と後始末の手伝いができない - めんどくさい - 曜日が合わない - 自分の予定がありそちらを優先させる - 高齢者中心で入りづらい - 友達がいない	- 若者が集えるコーナーの設置 - 出やすい日程の設定
その他	- 地域のことが分からない - 休日の行事が出にくい	あいさつ運動

第2回目 組織運営・若者の参加編

次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて(グループ別)

	状況	工夫
広報	- 仕事と日程があわない - 体力がない - イベントのキャッチフレーズがない - 文章の使い回しになっている	- 若い方のアイデアを活かしたイベントを宣伝する - 広報に日時だけでなく基本内容を付け加える
会議	- 時間が長い - ほとんどが予め決まっていて意見を言えない - ふるさとまつりなど枠が決まっている - どこまで理解されていて、どこから理解されていないのかわからない	- 事前に議題を知らせておく - 話の内容や背景を共有する時間が必要 - 入り口は軽くする - 時間短縮、若い人の参加しやすい日時への変更
イベント	- 育成のための接点がない - 道具などの一覧表はあるが、どこにあるかわかっていない人が多い印象 - 役割がきちんと振られていない - 力仕事は女性には難しい？ - なんのためのイベントが理解されていない	- 行事の内容を若い人のアイデアに任す - 若い人の案を否定しない - 新しいイベントをやる - 行事のこの指とまれ方式、プロジェクト型へ
その他	- 手伝ってもらふ際の指示役が少ない - 世話役になると負担が大きい - それぞれの長が肅々とこなすだけになっている	- 組長が後継者を探す意識をもつ - 役員の数もフレキシブルに変えてみる - 責任感のある人を探す

第2回目 組織運営・若者の参加編

次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて(グループ別)

	状況	工夫
広報	・ 回覧を見てくれていない ・ 回覧物が一方通行で意見を聞けていない	・ 参加賞を出す ・ 直接会って話をすると参加してくれる ・ 当番など役割は参加してくれる ・ カラー写真で楽しい様子を伝える ・ 行事の案内は全戸配布 ・ 行事案内をデジタル化 ・ 交流する日をあらかじめ決める
会議	・ 行事の参加者に偏りあり(お母さん多) ・ 自治会が何しているかわからない ・ 会議が長い	・ 食事を出すと参加してくれる？ ・ 土日にするなど若者が参加しやすい工夫 ・ 決めることはさっさと決める、時間は19:30-20:30 ・ 交流会を定期的に設ける
イベント	・ 子どものテストがかぶるなど時期がよくない ・ イベントは楽しいので子どもは来るが親が来ない ・ 役員しか来ない ・ 参加している人が決まっているため馴染めない ・ 飲んだり食べたりがない	・ 運動会は出てくれる ・ スタンプやポイントを集める ・ 行事と重ならないように時期を考える ・ 役員を若返らせる
その他		・ 全会長が集まって話をする場を設ける ・ イベントも全体で話をする ・ 顔見知りの関係を増やす工夫

第2回目 組織運営・若者の参加編

次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて(グループ別)

	状況	工夫
広報	・ チラシのフォントが明朝体で固い ・ お知らせは面白くないので読まない ・ 内容が伝わらない ・ 中身がパッと見でみえない ・ 掲示板にチラシがあるが、意識しないと見ない ・ 個人を特定するようなお知らせの仕方は難しい	・ フォントをもっと変えたらどうか ・ 文章も強制感がでないよう、親しみがあるように ・ 子どもから親に手渡しできるような仕組み ・ ターゲットを明確に。 ・ 「私に届いている」とわかるように ・ イベントの後に次の参加の確認をする等、直接会える場を活かす
会議	・ 誰が参加しているか顔が見えない ・ 私ってこの会議に必要なのかな？と思う ・ 知り合いが誰もいなくて、自分1人だと参加しにくい ・ メンバーが固定化されていて新人が参加しにくい ・ とびとびの参加だと議論についていけない ・ 子育てで出られない ・ そもそも話し合うのではなく報告の場になっている ・ 意見を言うと会議が伸びてしまい、他の方にも申し訳ない	・ 楽しいイベントやもの+会議という開催 ・ 楽しいことをが目に見えるように ・ 聞く会議と話し合う会議を分けて、行く意味を明確に ・ おやつやお菓子がでる。それを会長が率先して食べる
イベント	・ そもそもみんな参加しているのか ・ 防災訓練などいらないといけなのはわかるが… ・ ついつい忘れてしまう ・ 今回のようなワークショップは参加しやすい	
その他	・ そもそも現役世代は働いているので「参加しにくい」	・ 参加できない時に、LINEなどで会議の内容が速やかに共有できる仕組み ・ LINEで意見が言える仕組み ・ ビデオチャットなどでネットで参加できる仕組み

第2回目 組織運営・若者の参加編 次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて

赤文字はどちらの世代も共通している意見
青文字はその世代にのみの特徴ある意見

広報

	50歳以下	50歳以上
状況	・ 明朝体は固い雰囲気が出る ・ パッとみて中身や内容がわからない ・ 面白みがあるやわらかい雰囲気 ・ 回覧板、掲示板しかお知らせがない	・ 回覧板を見てももらえない ・ 事後報告が多い ・ 一方通行で意見を聞けていない ・ 内容が固い、おもしろくない ・ 文章を使いまわしている ・ アナログな印象を受ける
工夫	・ フォントを変える ・ 強制感がでないような親しみやすさ ・ 子どもから親に直接渡すような仕組み ・ ターゲットを明確にして「私に届いたものだ」とわかるように ・ イベントの後に参加の確認をしたり、直接あう場を活かす	・ チラシの全戸配布 ・ SNSの活用 ・ 文字は少なく写真を多用 ・ クイズ ・ 直接会って話をする機会を増やす

第2回目 組織運営・若者の参加編 次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて

赤文字はどちらの世代も共通している意見
青文字はその世代にのみの特徴ある意見

会議

	50歳以下	50歳以上
状況	・ 参加している方の顔が見えない ・ 知り合いがおらず1人だと参加しにくい ・ 固定したメンバー関係ができていく ・ いける範囲の参加だと内容が飛び飛びで議論についていけない ・ 話し合いではなく、報告になっている ・ 意見を言うと会議が伸びて申し訳ない ・ 子育てで時間帯によって参加できない	・ 参加しなくても困らない内容 ・ 会議が長い ・ 決定事項が多く意見を言えない ・ 行事なども決まっている ・ 共働きが多く昼間は難しい ・ 決まった事の報告になっている
工夫	・ 楽しいもの＋会議などの組み合わせ ・ 楽しいことが目に見える工夫 ・ 聞く会議と話し合う会議を分ける ・ なぜ参加するのか行く意味を明確にする ・ おやつがでる、会長が率先して食べる ・ 参加できない際のLINEなどの内容共有 ・ LINEで意見が言える仕組み ・ ビデオチャットなどでネットで参加	・ 参加者が発言できる場にする ・ 受け入れられるような雰囲気 ・ 時間を短く、内容を先に知らせる ・ 若い人の参加しやすい時間や日程の工夫 ・ 食事を出す

第2回目 組織運営・若者の参加編 次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて

赤文字はどちらの世代も共通している意見
青文字はその世代にのみの特徴ある意見

イベント		
	50歳以下	50歳以上
状況	・全体的にはみんな参加している認識 ・そもそもみんな参加しているのだから…と思って参加している人と参加しない人がいる →結局誰もいない！とか、知っている人がいてよかったーという気持ち ・防災訓練などいかなければいけないのはわかるが、つい忘れてしまう	・若者が興味をもつイベントが行われていない ・限られた人で運営している ・子どもと参加できるものが少ない ・高齢者中心で入りにくい ・役割がふられていない ・イベントの意味が理解されていない ・飲み食いの交流がない
工夫	・何回もお便りがきたので今回も行くことにした ・今回のワークショップのように意見を言うとか、何をすればいいか、わかっているものは行きやすい	・行事や内容を若者のアイデアに任す ・新しいイベントをつくる ・行事のこの指とまれ方式 ・参加者が発言できる場にする ・受け入れられるような雰囲気 ・時間を短く、内容を先に知らせる ・若者の参加しやすい時間や日程の工夫

第2回目 組織運営・若者の参加編 次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて

赤文字はどちらの世代も共通している意見
青文字はその世代にのみの特徴ある意見

その他		
	50歳以下	50歳以上
状況	・そもそも若者世代は働いているので、「この世代は参加しにくい」という前提で考えることも必要ではないか	・若い人同士の話し合いの場がない ・独身者が多い、居場所がわからない ・情性で粛々と続ける雰囲気 ・高齢者に叱られることが多い ・一度入ったら抜けられない雰囲気 ・手伝ってもらう際の指示役が少ない
工夫		・若者の意見を受け入れる、見守る ・飲み会などを行って横のつながりを強くする、顔見知りを増やす ・あいさつ運動 ・組長が後継者を探す意識を持つ ・前会長が集まって話をする場を設ける

郡校区ワークショップ

第3回の概要

解決策を考える編

1、2回目の課題について解決法を考えてみる

2回目で世代別に出した意見から、事務局が両世代共通の意見をもとにテーマを設定し、具体的な取り組みを考えました。これまで別れていた世代別グループをひとつにして、具体的なはじめの一步としての取り組みを考える話し合いを行いました。

第3回目 解決策を考える編 1、2回の課題について解決法を考えてみる

世代別で実施した前回の意見から両世代に共通する項目を運営事務局で整理し、4つのテーマの中から話し合いたいテーマを選んで頂き話し合いを実施

A	若者が地域を知るための入り口や広報のあり方を具体的に考える！
B	若者と地域と一緒に楽しめる会議のあり方やルールを具体的に考える！
C	若者が地域と混ざり合うための交流の場を具体的に考える！
D	その他、この解決策を考えたい！

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる(グループ別)

テーマ	A.若者が地域を知るための入り口や広報の在り方を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	【掲示板】 ・自治会のお知らせだけでなく、サークルの活動の広報として使えないか ・手書き ・掲示板がもう少し大きければ 【まちづくりだより】 ・写真多め、文字は少なく大きめ ・6月と12月で年2回 ・まち協が他団体から原稿、イベントの報告をもらっている ・どの団体が何をしているか分からないから団体紹介の掲載 ・編集を手伝ってくれる人を募集、募集文言の検討 →「手伝って」と声をかけることは大事！ 何を欲しいのか、指示出してくれればそう動く。優しい声かけ 若い人は「お手伝いしてなくていいよ」と言われると帰ってしまう→優しくこきつかう！ 「手伝いましょうか？」と聞かれたら「いいよ」ではなく、「ぜひぜひ」と言う。 若い人は、頼りにされると嬉しくなる！ ・地域交流学習@公民館 →小学校の委員会として話してみるとおもしろい？ 例)このイベントをしているのは〇〇委員 (こども会に入ってる/入ってないがあるのもむずかしい→小学校と応相談) 【回覧板】 ・認知症の方への回覧板を最後に回すなどの工夫あり ・大事なことは大きな字でかわいく ・早めに回しておかないと いけないという気持ちがあり、ゆっくり読めていない ・自分に関係あるものは最低限みるけれど。。。 ・1枚目に目次(手書きOK!PC OK!) 【LINE勉強会/スマホ勉強会】 ・若者×シニア、プライベートな話に発展できる可能性あり 【自治会役員×こども会×青少年 保護者交流】 ・自治会はこども会の情報を知らない。こども会の活動何かサポートできるかもしれない →総会でイベント(交流の場)の提案 ・総会の場でワークショップに実施！？意見を紙に書くなどあれば◎
必要なもの	
連携したい人・団体	まちづくり協議会、公民館、小学校の委員会、こども会
まずここから行動する	

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる(グループ別)

テーマ	C:地域が混ざり合うための交流の場を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	【ターゲット】 ・30代~50代→後継者として ・公民館のイベントに出てきてほしい ・運営に参加してほしい ・会議の際に若者が置いてきばりにならないような工夫が必要 【きっかけが必要】 ・若者が主体になったイベントがあれば○ ・チラシをかわいくする ・役が当たらなければ参加しやすいのでは ※できる時にできる人ができることをする 【懇親会】 ・全体の取り組みにしてい ・会議終わりの懇親会、交流会 ・運動会のあとには打ち上げがある →奉仕活動、一斉清掃のあとに打ち上げ、交流会
必要なもの	
連携したい人・団体	
まずここから行動する	

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる(グループ別)

テーマ	C:地域が混ざり合うための交流の場を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	・対話の中で交流ができるようにする ・知り合いになるための場が必要 ・写真入りの自治会役員紹介 ・手渡し ・1年間の行事がわかるようなもの ・自治会が何をしているか見える場 【バージョンアップできること】 ・懇親会打ち上げ ・文化祭、もちつき、豚汁 ・スポーツレクリエーション ・バス旅行 ・ふるさと祭り
必要なもの	年間スケジュールの地域全体の調整
連携したい人・団体	・お父さん、お母さん（中学生も） ・PTAの役員さん、会長、こども会 ・子ども
まずここから行動する	・出来る時にという案内をする ・役を1つずつ分ける ・強制感のある仕組み ・見守り隊、PTAとの懇親会 ・女性を勧誘 ・知っている人に声かけを広げていく ・あいさつ活動のコミュニケーション

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる(グループ別)

テーマ	A:若者が地域を知るための入り口や広報の在り方を具体的に考える C:地域が混ざり合うための交流の場を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	・自治会加入を宣伝 【広報】 ・広報部員の増員、新設 ・郡まちづくりHPを解説し、情報発信・収集 ・シルバー川柳 ・文字を大きくして、興味を持ってもらう ・クイズを掲示する ・写真等見るだけで興味 ・ポスターに必ず去年の写真(加工あり)を入れて着目してもらう 【回覧板】 ・イベント当日朝に、開始時刻をメール配信 ・表紙だけでも掲示板に掲示する 【みまもり活動につなげる】 ・コミュニケーションを兼ねて、戸別訪問部員の新設（現状 回覧・掲示板） 【運営委員を公募】 ・内容によって全戸配布に広報 ・SNS/SMSで会議の案内を知らず ・解体してつくりなおす 【SNS勉強会】 ・私にもできると思ってもらえる案内 ・会議の内容をあらかじめ伝えておく 【お子様がいるような年代の家庭や独身の方へ】 ・SNSでもらえるお得なイベント ・大学との事業交流(企画段階から) ・小学生にこのまちをどうする？という話し合いの場をもってみる ・ゆるキャラをイベントで交流 ⇒ 地域の方とふれあい、ひまわりのゆるキャラ
必要なもの	・SNSやスマホの使い方を教えてくれる若者 ・広報を専門に行う部隊
連携したい人・団体	・大学（追手門・梅花・立命館） ・クイズ考えたい人、川柳サークル
まずここから行動する	・新しい部会をつくる ・SNS勉強会をやってみる ・シルバー川柳 ・文字を大きくして、興味を持ってもらう ・クイズを掲示する ・SNS/SMSで会議の案内を知らせる

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる(グループ別)

テーマ	C:地域が混ざり合うための交流の場を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	【ターゲット】 30歳～50歳 【集まる日】 土日の昼間に集まる 【最初の一步】 ①小単位(5世帯)程度でレクリエーション ②人脈「若いお父さんに声掛けする」 ・交流の場を設ける ・若い人が参加できるような日時を選ぶ ・子ども、赤ちゃんを連れて来れる場や環境 ③有償ボランティア制度 【次の一手】 ふるさと祭り ・実行委員会は決まったメンバーのため、子どもにお手伝いから始めてもらう
必要なもの	・お金 ・食事会のような場 ・多世代交流の場
連携したい人・団体	各種団体と自治会の連携強化
まずここから行動する	

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる

テーマ	A.若者が地域を知るための入り口や広報の在り方を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	【掲示板】 自治会のお知らせに加えてサークル活動の広報として利用するのはどうか/手書きチラシ 【まちづくりだより】 現在は、まち協が他団体からイベント報告の原稿を依頼し、それを掲載 写真多め、文字は少なめ/手伝ってくれる人を募集する文言の掲載/どの団体が何をしているかわからないため団体の紹介を掲載/具体的な組織図 【回覧板】 自分に関係あるものは最低限みているけれど。。/認知症の方には、回覧板を最後にもっていくなど工夫/1枚目に目次を付けておくことで回覧板の中身がわかる/表紙だけでも掲示板に掲示する 【SNS・HP】 LINE、スマホ勉強会/郡まちづくりHPを解説し、情報発信・収集/SNS・SMSで会議の案内/イベント当日朝に、開始時刻をメール配信/送り方や文面を考える、画像中心の発信で短文/SNSでもらえるお得なイベント 【みまもり活動につなげる】 コミュニケーションを兼ねて戸別訪問部員の新設(現状 回覧・掲示板)/写真等見るだけで興味/ポスターに必ず去年の(前回)写真(加工あり)を入れて着目してもらう 【運営委員を公募】 内容によって全戸配布に広報/広報部員の増員、新設/解体してつくりなおす! 【その他】 シルバー川柳/クイズを掲示/地域交流学習の際に、小学校の委員会と関連づけて地域の委員会を説明/若者にきちんと手伝ってほしいと声をかけること大切/大学との事業交流(企画段階から) 追手門・梅花・立命館/小学生にこのまちどうする? 話し合いの場をもってみる
必要なもの	SNSやスマホの使い方を教えてくれる若者/広報を専門に行う部隊
連携したい人・団体	まちづくり協議会/公民館/小学校の委員会/こども会/大学/クイズ考えたい人/川柳サークル
まずここから行動する	・新しい部会をつくる ・SNS勉強会をやってみる /SNS、SMSで会議の案内を知らす ・シルバー川柳/クイズ ・文字を大きくして、興味を持ってもらう ・「手伝いましょうか?」と言われたら、具体的なお仕事をお願いする

取り組みそうなこと・取り組みたいこと

- ・回覧板に目次をつける
- ・SNS勉強会
- ・文字を大きく、写真を多く
- ・若手世代にお手伝いしてほしいことをきちんとお願いする

第3回目 解決策を考える編

1、2回の課題について解決法を考えてみる

テーマ	C.地域が混ざり合うための交流の場を具体的に考える
具体的な取組やアイデア	【ターゲット：30代～50代】 土日の昼間に集まる/後継者としてこの代がきてほしい/公民館のイベントに出てきてほしい 運営に入ってきてほしい 【工夫】 若者が主体になったイベントがあれば/チラシを可愛くする/できる時にできる人ができることをしてもらう/役員の免除や分担などの取り決め/会議の際に若者が置いてきぼりにならないように情報共有 【懇親会】 知り合いになるための場として実施/対話のなかで交流/会議終わりの懇親会/運動会のあとには打ち上げがある/奉仕活動、一斉清掃のあとに交流会/自治会役員×こども会の保護者の交流 【雰囲気づくり】 写真入りの自治会役員紹介 / 広報物の手渡し/1年間の行事や自治会が何をしているか見える場 【既存のものをバージョンアップ】 懇親会、打ち上げ / 文化祭、もちつき、豚汁/スポーツレクリエーション/バス旅行/ふるさと祭り
必要なもの	・年間スケジュールの地域全体の調整 ・お金、場(食事会) ⇔ おこり食堂 (多世代交流の場)
連携したい人・団体	まちづくり協議会/公民館/小学校の委員会/こども会/各種団体と自治会の連携強化
まずここから行動する	・出来る時という案内をする ・役を1つずつ分ける ・見守り隊、PTAとの懇親会 ・知っている人に声をかけを伝えていく ・あいさつ活動のコミュニケーション 【最初の一步】 ①小単位(5世帯)でレクリエーション ②「若いお父さんに声掛けをする」③有償ボランティア制度 (→交流の場を設ける「時間・日時を若い人が参加できるよう選ぶ、子どもを連れて来れる環境」) [次の一手] ふるさと祭り!! (実行委員会は決まったメンバーなので子どもにお手伝いから始めてもらう)

取り組みそうなこと・取り組みたいこと

- ・ 会議やイベント後の懇親会の開催
- ・ 既存のレクリエーションをバージョンアップ
- ・ 毎回でなくとも、来れる時だけでもいいのできてほしいことを伝える

全3回のワークショップを終えて 今後について

全3回を通しての成果

- ・ 郡校区の現状と未来を共有することができた。
- ・ 若手世代と現役世代が共に話し合う場をもつことができた。
- ・ 若手世代の意見と現役世代の意見の相違点がみえた。
- ・ 広報、会議、交流の場についての具体的な取組がみえた。



今後の展開方向

- ・ 回覧板など各種広報物についての見やすさ、読みやすさ検討
- ・ SNSを使った発信勉強会の実施
- ・ 会議やイベント後の懇親会など、無理のないつながりの場の検討
- ・ 若者の巻き込み方（行事でのお手伝い項目など）

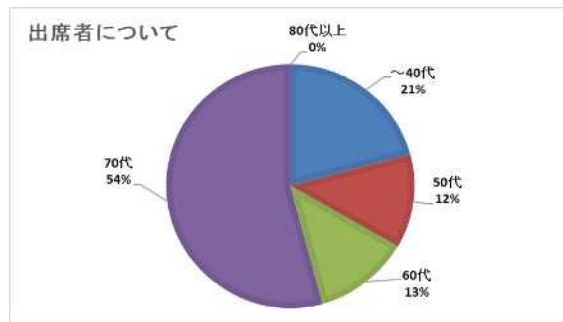
担い手の獲得について検討

- ・ 若いお父さんの巻き込み方の検討
- ・ 有償ボランティアのあり方検討
- ・ 若い方中心の部会をつくる

地域活動の活性化に向けたワークショップ アンケート集計(郡)

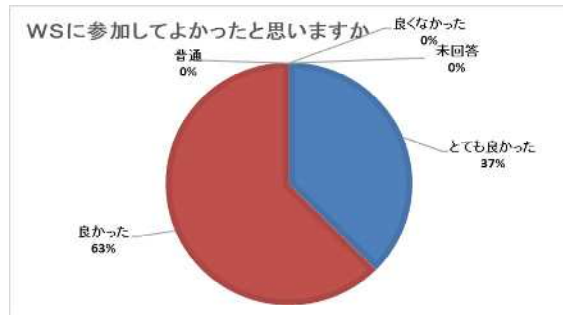
問1 出席者について

問1	回答数
～40代	5
50代	3
60代	3
70代	13
80代以上	0



問2 ワークショップに参加して良かったと思いますか。

問2	回答数
とても良かった	9
良かった	15
普通	0
良くなかった	0
未回答	0

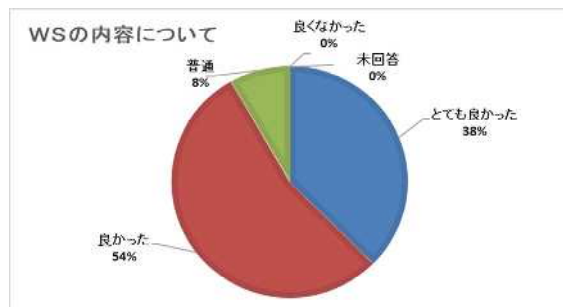


【理由】

- ①様々な意見が聞けたこと。
- ②色々な意見があった。
- ③いろいろな方(世代)との交流ができた。
- ④他の意見が聞けてよかった。
- ⑤年代のちがう方々と楽しくお話ができた。
- ⑥普段気になっていることを共有できたから。
- ⑦自分と違う考え方が参考になった。
- ⑧友達ができた。
- ⑨今後の自治会活動で勉強になった。
- ⑩話ができた(すすんだ)。
- ⑪色々な取り組みのideaや思いもつかない意見…参考。

問3 ワークショップの内容について

問3	回答数
とても良かった	9
良かった	13
普通	2
良くなかった	0
未回答	0

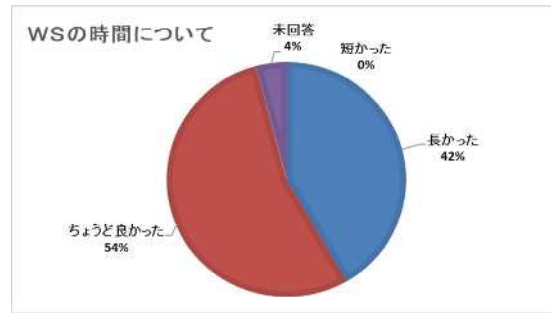


【理由】

- ①気がついた事があった。
- ②自治会加入方法、研修いいね。
- ③判り易かった。
- ④今後の役に立てたい。
- ⑤郡がずっと住み良い町で入れる様に思えた。
- ⑥これからの郡校区に必要なだから。
- ⑦自治会で生かすことが出来ると思う。
- ⑧良い意見が聞けて良かった。
- ⑨みんなの考えている事が一致した。
- ⑩的をえていた。タイムリー
- ⑪当日にテーマについて考えなければならず大変であった。

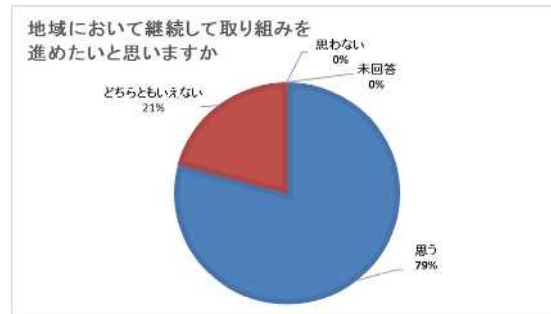
問4 ワークショップの時間について

問4	回答数
長 か っ た	10
ちょうど良かった	13
短 か っ た	0
未 回 答	1



問5 今回のワークショップの経験を生かして、地域において継続して取組を進めたいと思いますか。

問5	回答数
思 う	19
どちらともいえない	5
思 わ な い	0
未 回 答	0



問6 今回のワークショップ以外に取り上げたいテーマがあればお聞かせください。

- ①高齢者問題
- ②行事運営のあり方
- ③自主防災組織の立ち上げ、運営について意見交換
- ④防犯・不審者の現行犯にどう対応するか、予行演習をする必要がある！！
- ⑤もっと具体的に問題を取り組む。(例えば、あぶない道路をどうするか...)
- ⑥今後の10年先を考える事
- ⑦みんなのサードプレイス(居場所)、公園をつくりたい。
- ⑧各自治会のやってる事を共有したい。
- ⑨子育て世代をターゲットにした、ワークショップ(保～大学)

問7 ワークショップの感想などをお聞かせください。

- ①地域活動の参考となった。
- ②いろんな方の意見が聞けて良かった。
- ③意見を言ってもやっぱり否定される方もいます。
- ④コミュニケーションがいかに重要かが分かった。それによって問題点を共有でき、また、解決の足がかりにもなる。
- ⑤気分が晴れる思いがした！！
- ⑥ファシリテーターというお仕事がある事を知った。この要は話合いはとてもいいことだと思う。
- ⑦多くの親が出て、大変参考になりました。今後も地域内で続けたいと思います。
- ⑧年代を分けていただけたら話がしやすかったけど、ごちゃまぜにされると話がしづらかった。
- ⑨普段お話ができない方々といういろいろなお話ができておもしろかったです。でも、やはり、平日の夜は参加が難しかったです。
- ⑩発表がにがてだったが、実際になくなって良かった。コミュニケーターの方が素晴らしい。
- ⑪皆の発言をファシリテーター(第三者的に)がまとめてくれるのが良かった。
- ⑫広報・会議・イベント・その他のシーンで考えられたが、将来に継続できる人材の発掘や人選について考えるべき、人に関する考え、意見を。

参考資料

ワークショップ当日資料等

茨木市 校区ワークショップ

郡校区の今とこれからの担い手で
まちづくりを考える
～郡校区まちづくりワークショップ～

まちとしごと総合研究所

茨木市 校区ワークショップ

ごあいさつ

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けた ワークショップの概要

まちとしごと総合研究所

地域コミュニティの現状

【背景】

- 少子高齢化に伴う人口減少や人口構造の変化
- 人々の価値観の変化
- ライフスタイルの多様化
- 核家族化、単身世帯や共働き世帯の増加



【現状（課題）】

- 自治会加入率の低下（約60%）
- 高齢化による担い手不足
- 自治会等の役員就任への負担感
- 地域活動に対する負担感

次なる
茨木へ。



茨木には、次がある。



【影響】

- 自治会等への未加入や脱会
- 防犯、防災、福祉、環境などの自治会機能が縮小

「安全・安心で住みよいまちづくり」

への影響が懸念される。

そこで！！

次なる
茨木へ。
茨木には、茨がある。

4

地域コミュニティの維持・向上

～ 地域自治組織及び自治会活動の更なる活性化をめざして ～

【きっかけ】

コミュニティへの参加

- 宅建協会、不動産協会との連携（平成31年2月協定締結）
- 自治会加入促進月間の充実（ゴミ収集車から音声による啓発）
- 自治会の結成に向けた説明会の実施

【インセンティブ】

担い手の充実
自治会活動への参画

- 自治会表彰制度（役員、各種団体、事業者等）
- 自治会活動報償金
- 地域自治組織結成等支援交付金

【地域の更なる活性化】

人材の育成
地域活動の活性化

- 地域活動の活性化に向けたワークショップ及び意識調査（課題の洗い出しから課題解決策の検討）
- 地域行事開催等事業補助金（ふるさとまつり、地区体育祭等）
- 地域活動支援交付金

「真に豊かで持続可能な地域社会」の実現

茨木には、茨がある。

■ワークショップ対象及び目標

○地域自治組織結成校区

地域コミュニティ基本指針

⇒「地域が主体的に行う取組」の一つである
「協議の場づくり」として実施。

目標「人材の育成、地域活動の活性化」

○地域自治組織未結成校区

地域コミュニティ基本指針

⇒「地域が主体的に行う取組」の一つである
「地域自治組織づくり」として実施。

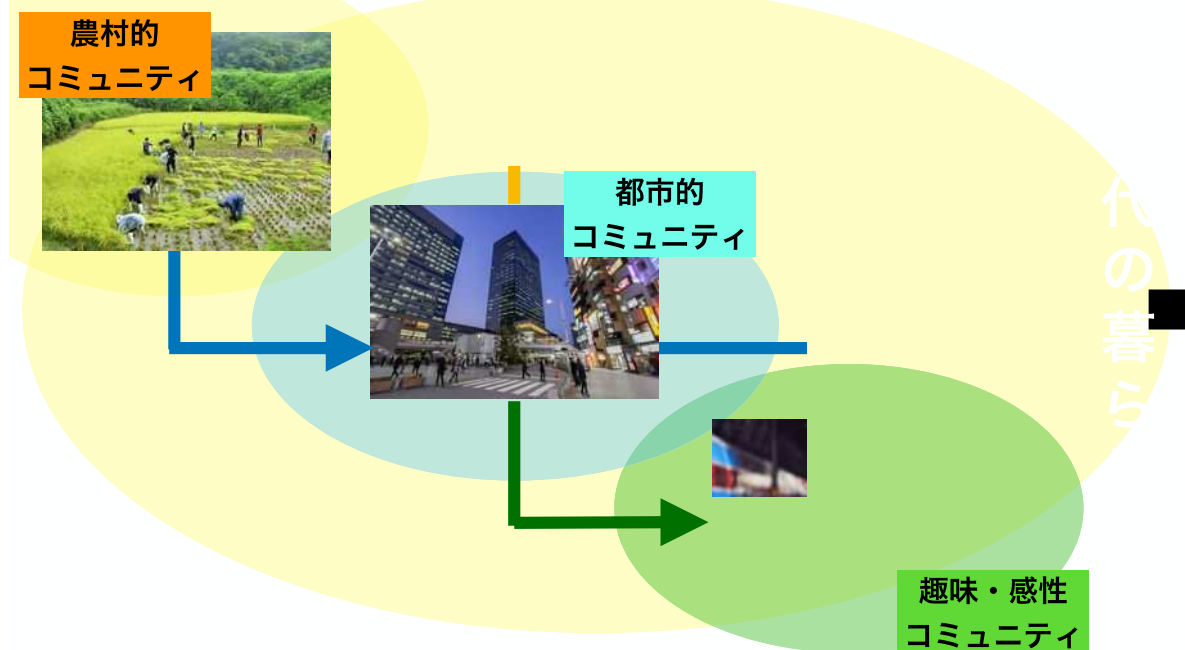
目標「担い手の充実、活動への参画」

次なる
茨木へ。
茨木には、資がある。

本日のおおよその流れについて

時間	内容
19:00～	ごあいさつ、趣旨説明
19:10～	ワークショップの内容と今後の流れ
19:20～	自己紹介をかねたウォーミングアップ
19:30～	グループワーク
20:30～	全体での共有
20:40～	話し合いの工夫・次回の連絡・閉会挨拶
20:45～21:00	閉会予定 ※話し合いの進捗で前後します

地域が「画一的」ではなく考え方も「多様」



自治を次へ変えていく必要がでてきた昨今

郡校区まちづくりワークショップの目的

まちのこれからへの視点

現役で地域を支える
担い手の視点

取り組み
ヒント

それを引き継ぐ世代の
担い手の視点

まちの現在への視点

郡校区まちづくりワークショップ～今後の流れ

未来へ向けた種（郡校区のよいところ・そのために改善したほうがいい所）
たくさん出す2回のワークショップ

令和元年 11月22日 19:00-21:00	郡のまちのこれから編 ・グループで話し合う現在と将来のまちについて
令和2年 1月22日 19:00-21:00	組織運営・若者の参加 編 ・次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて
令和2年 2月5日 19:00-21:00	解決策を考える 編 ・1,2回の課題について解決法を考えてみる

郡校区のよいところ・そのために改善したほうがいい所
実際にさらに伸ばすためのアイデアや解決策を考えてみる1回

郡校区まちづくりワークショップ

よりよい話し合いをするために
ファシリテーターという役割



中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

郡校区まちづくりワークショップ

よりよい話し合いのためのお願い

① さまざまな意見がでることを全体で歓迎

それは違う！ → その発想はなかったな

② 誰かのお話に乗っかっての一言歓迎

×違う意見を言わなければならない？

③ 自分の話は簡潔にサクサクと！

④ 今日の話はここだけ（肩書を忘れる）

×あの意見よかったからやってよ

中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

郡校区まちづくりワークショップ

ではまず話し合いのウォーミングアップ

お手元のA4サイズの手紙

お名前	所属
校区の いいところ	今日 どんな気持ちで 来られました？

1人2分程度で、合計10分後にお声がけします

ではウォーミングアップからスタート！

お手元のA4サイズ用の紙

お名前	所属
校区の いいところ	今日 どんな気持ちで 来られました？

郡校区のいいところ

ここはウォーミング
アップで練習しました！
もっとあればぜひ！

----- 現状 -----

郡校区のまちで
気になること

郡校区がもっと
こうなってほしい

未来

郡校区が
こうになったら
嫌だな・・・

郡校区のいいところ

ここはウォーミング
アップで練習しました！
もっとあればぜひ！

----- 現状 -----

郡校区のまちで
気になること

郡校区の現状を共有
してみましよう

みなさんが
気になっている
「まちの困りごと」
「まだできていないこと」
「気になること」
は何ですか？

郡校区の未来を共有
してみましよう

みなさんの考える
郡校区のよりよい
未来の姿
はどんな未来ですか？

郡校区がもっと
こうなってほしい

----- 未来 -----

郡校区が
こうなったら
嫌だな・・・

郡校区まちづくりワークショップ

急にまちの「現在とこれから」を～と言われていも…

連想のヒント

- ・ 自分が見たのは、知っているのは～
- ・ こんなもったいない話があって～
- ・ 昔と比べて今は～
- ・ もっとこうなったらいいのに～
- ・ これ活用できていなくて～

第1回は種がたくさん出ることがゴールです！
多ければ多いほどいいです！

郡校区まちづくりワークショップ 次回のお知らせ

組織運営・若者の参加 編

- ・ 校区の担い手がもっと参加しやすくなる
運営の課題はなんでしょうか？
- ・ 校区の担い手が参加したくなるには
どんな工夫が考えられますか？

1月22日 19:00～21:00

郡コミュニティセンター同会場

地域活動の活性化に向けたワークショップ

郡校区の今とこれからの担い手で
まちづくりを考える
～郡校区まちづくりワークショップ②～

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ごあいさつ

まちとしごと総合研究所

本日のおおよその流れについて

時間	内容
19:00～	ごあいさつ、趣旨説明
19:10～	前回のおさらいと話題提供
19:20～	自己紹介をかねたウォーミングアップ
19:30～	グループワーク
20:30～	全体での共有
20:40～	話し合いの工夫・次回の連絡・閉会挨拶
20:45～21:00	閉会予定 ※話し合いの進捗で前後します

前回ワークショップのおさらい・話題提供

未来へ向けた種（郡校区のよいところ・そのために改善したほうがいい所）
たくさん出す2回のワークショップ

令和元年 11月22日 19:00-21:00	郡のまちのこれから編 ・グループで話し合う現在と将来のまちについて
令和2年 1月22日 19:00-21:00	組織運営・若者の参加 編 ・次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて
令和2年 2月5日 19:00-21:00	解決策を考える 編 ・1,2回の課題について解決法を考えてみる

実際にさらに伸ばすためのアイデアや解決策を考えてみる1回

郡校区のいいところ

ここはウォーミング
アップで練習しました！
もっとあればぜひ！

----- 現状 -----

郡校区のまちで
気になること

郡校区がもっと
こうなってほしい

未来

郡校区が
こうなったら
嫌だな・・・

郡校区のいいところ

- ・自然が豊かである/暮らしやすい環境
- ・子どもの見守り活動が活発
- ・年配の方が元気
- ・自治会・地域行事（祭）が活発
- ・放課後子ども教室がありがたい
- ・近隣とのコミュニケーションが活発

----- 現状 -----

- ・街灯が少なく暗い,交通量,交通マナー
- ・ひとり暮らしの高齢者,引きこもりがち
- ・放課後教室の子どもが減ってきている
- ・自治会,子ども会の役員の高齢化,不足
- ・新しい方の自治会への参加が少ない
- ・活動者がいつも一緒になってしまう

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・年配の方がいきいきと健康なまち
- ・好きな事や趣味でつながる環境
- ・子連れで参加できるようなイベント
- ・役員の負担が減るような運営方法の模索
- ・自治会に全戸加入してほしい（より平等に）
- ・若い人が集まる場所がもっとあってほしい
- ・公園がもっと増えてほしい
- ・防災の課題,避難所がもっと増えてほしい
- ・住みたいと思えるまちになってほしい

未来

- ・地域活動や人に無関心なまち
- ・自治会のメンバーが固定化されるようなまち
- ・担い手がないまち
- ・子どもが減ったり学校がなくなっていくまち
- ・地域の行事が理由なく減っていくようなまち
- ・若者の視点や意見を邪魔するようなまち

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

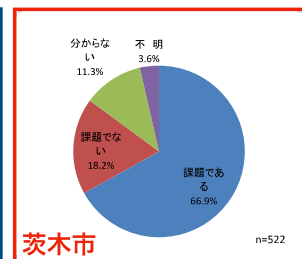
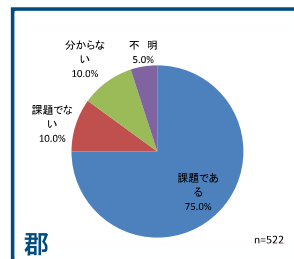
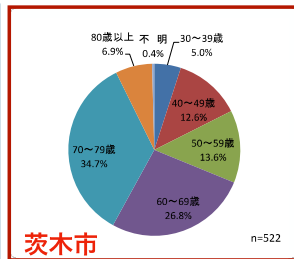
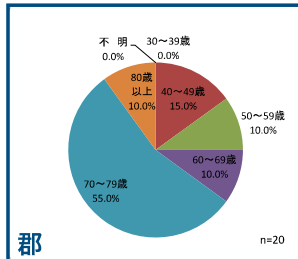
前回ワークショップのおさらい・話題提供

『2019年 茨木市地域コミュニティ活性化に関するアンケート結果（速報）』

1 回目のワークでのご意見が裏付けられています

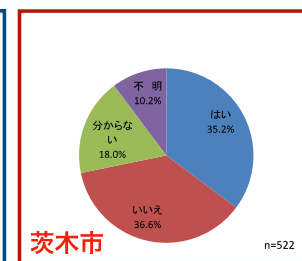
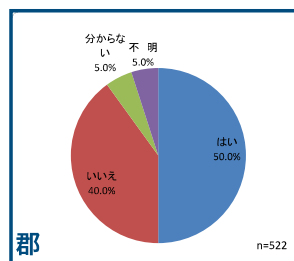
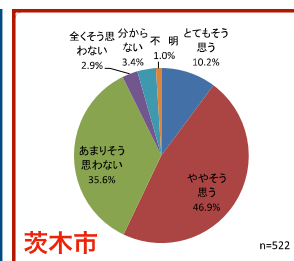
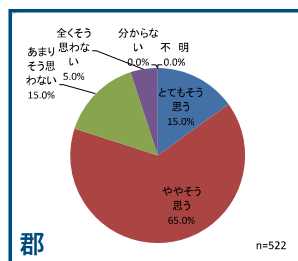
回答者の年齢構成

問19 取り組んでいる課題 ③ 役員の負担が大きく、担い手がない



問5 あなたは、地域住民の交流・連携が進んでいると思いますか。

問20 所属している地域組織の活動において、様々な年代の地域住民の方々が参加していただけるような工夫をされていますか。



今回もよりよい話し合いのために

よりよい話し合いをするために ファシリテーターという役割



中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

今回もよりよい話し合いのために

よりよい話し合いのためのお願い

① さまざまな意見がでることを全体で歓迎

それは違う！ → その発想はなかったな

② 誰かのお話に乗っかっての一言歓迎

×違う意見を言わなければならない？

③ 自分の話は簡潔にサクサクと！

④ 今日の話はここだけ（肩書を忘れる）

×あの意見よかったからやってよ

中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ではまず話し合いのウォーミングアップ

お手元のA4サイズの手紙

お名前	所属
若者が「参加しやすい」ためにはどんなことが大事？ （どんな組織？会議？）	

参加が難しくなるのはなぜだろう？

シーン別 若者が参加しにくいのかも…を考える

	参加しにくいのかも…と思うシーン	それをえるためには…（こう変えたら…）
広報		
会議		
イベント		
その他		

「急に意見を求められても…」という方

連想のヒント

- ・ 自分が見たのは、知っているのは～
- ・ こんなもったいない話があって～
- ・ 昔と比べて今は～
- ・ もっとこうなったらいいのに～
- ・ これ活用できていなくて～

第2回も種がたくさん出ることがゴールです！
多ければ多いほどいいです！

次回のお知らせ

解決策を考える 編

- ①若者が参加したくなる改善方法
- ②まちの課題を解決する取り組みアイデア

2月5日 19:00～21:00

郡コミュニティセンター同会場

地域活動の活性化に向けたワークショップ

郡校区の今とこれからの担い手で
まちづくりを考える
～郡校区まちづくりワークショップ③～

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ごあいさつ

まちとしごと総合研究所

本日のおおよその流れについて

時間	内容
19:00～	ごあいさつ、趣旨説明
19:10～	前回のおさらいと話題提供
19:20～	自己紹介をかねたウォーミングアップ
19:30～	グループワーク
20:30～	全体での共有
20:40～	話し合いの工夫・閉会挨拶
20:45～21:00	閉会予定 ※話し合いの進捗で前後します

前回ワークショップのおさらい・話題提供

未来へ向けた種（郡校区のよいところ・そのために改善したほうがいい所）
たくさん出す2回のワークショップ

令和元年 11月22日 19:00-21:00	郡のまちのこれから編 ・グループで話し合う現在と将来のまちについて
令和2年 1月22日 19:00-21:00	組織運営・若者の参加 編 ・次の担い手が参加しやすくなるまちづくりについて
令和2年 2月5日 19:00-21:00	解決策を考える 編 ・1,2回の課題について解決法を考えてみる

実際にさらに伸ばすためのアイデアや解決策を考えてみる1回

郡校区のいいところ

ここはウォーミング
アップで練習しました！
もっとあればぜひ！

----- 現状 -----

郡校区のまちで
気になること

郡校区がもっと
こうなってほしい

未来

郡校区が
こうなったら
嫌だな・・・

郡校区のいいところ

- ・自然が豊かである/暮らしやすい環境
- ・子どもの見守り活動が活発
- ・年配の方が元気
- ・自治会・地域行事（祭）が活発
- ・放課後子ども教室がありがたい
- ・近隣とのコミュニケーションが活発

----- 現状 -----

- ・街灯が少なく暗い、交通量、交通マナー
- ・ひとり暮らしの高齢者、引きこもりがち
- ・放課後教室の子どもが減ってきている
- ・自治会、子ども会の役員の高齢化、不足
- ・新しい方の自治会への参加が少ない
- ・活動者がいつも一緒になってしまう

郡校区のまちで気になること

郡校区がもっとこうなってほしい

- ・年配の方がいきいきと健康なまち
- ・好きな事や趣味でつながる環境
- ・子連れで参加できるようなイベント
- ・役員の負担が減るような運営方法の模索
- ・自治会に全戸加入してほしい（より平等に）
- ・若い人が集まる場所がもっとあってほしい
- ・公園がもっと増えてほしい
- ・防災の課題、避難所がもっと増えてほしい
- ・住みたいと思えるまちになってほしい

未来

- ・地域活動や人に無関心なまち
- ・自治会のメンバーが固定化されるようなまち
- ・担い手がないまち
- ・子どもが減ったり学校がなくなっていくまち
- ・地域の行事が理由なく減っていくようなまち
- ・若者の視点や意見を邪魔するようなまち

郡校区がこうなったら嫌だな・・・

前回ワークショップのおさらい・話題提供

		50歳以上	50歳以下
広報	状況	・ 回覧板を見てもらえない ・ 事後報告が多い ・ 一方通行で意見を聞けていない ・ 内容が固い、おもしろくない ・ 文章を使いまわしている ・ アナログな印象を受ける	・ 明朝体は固い雰囲気が出る ・ パッとみて中身や内容がわからない ・ 面白みがあるやわらかい雰囲気 ・ 回覧板、掲示板しかお知らせがない
	工夫	・ チラシの全戸配布 ・ SNSの活用 ・ 文字は少なく写真を多用 ・ クイズ ・ 直接会って話をする機会を増やす	・ フォントを変える ・ 強制感がでないような親しみやすさ ・ 子どもから親に直接渡すような仕組み ・ ターゲットを明確にして「私に届いたものだ」とわかるように ・ イベントの後に参加の確認をしたり、直接あう場を活かす

前回ワークショップのおさらい・話題提供

		50歳以上	50歳以下
会議	状況	・ 参加しなくても困らない内容 ・ 会議が長い ・ 決定事項が多く意見を言えない ・ 行事なども決まっている ・ 共働きが多く昼間は難しい ・ 決まった事の報告になっている	・ 参加している方の顔が見えない ・ 知り合いがおらず1人だと参加しにくい ・ 固定したメンバー関係ができている ・ いける範囲の参加だと内容が飛び飛びで議論についていけない ・ 話し合いではなく、報告になっている ・ 意見を言うと会議が伸びて申し訳ない ・ 子育てで時間帯によって参加できない
	工夫	・ 参加者が発言できる場にする ・ 受け入れられるような雰囲気 ・ 時間を短く、内容を先に知らせる ・ 若い人の参加しやすい時間や日程の工夫 ・ 食事を出す	・ 楽しいもの+会議などの組み合わせ ・ 楽しいことが目に見える工夫 ・ 聞く会議と話し合う会議を分ける ・ なぜ参加するのか行く意味を明確にする ・ おやつがでる、会長が率先して食べる ・ 参加できない際のLINEなどの内容共有 ・ LINEで意見が言える仕組み ・ ビデオチャットなどでネットで参加

前回ワークショップのおさらい・話題提供

		50歳以上	50歳以下
イベント	状況	・ 若者が興味をもつイベントが行われていない ・ 限られた人で運営している ・ 子どもと参加できるものが少ない ・ 高齢者中心で入りにくい ・ 役割がふられていない ・ イベントの意味が理解されていない ・ 飲み食いの交流がない	・ 全体的にはみんな参加している認識 ・ そもそもみんな参加しているのだろうか…と思って参加している人と参加しない人がいる →結局誰もいない！とか、知っている人がいてよかったーという気持ち ・ 防災訓練などいかなければいけないのはわかるが、つい忘れてしまう
	工夫	・ 行事や内容を若者のアイデアに任す ・ 新しいイベントをつくる ・ 行事のこの指とまれ方式 ・ 参加者が発言できる場にする ・ 受け入れられるような雰囲気 ・ 時間を短く、内容を先に知らせる ・ 若者の参加しやすい時間や日程の工夫	・ 何回もお便りがきたので今回も行くことにした ・ 今回のワークショップのように意見を言うとか、何をすればいいか、わかっているものは行きやすい

前回ワークショップのおさらい・話題提供

		50歳以上	50歳以下
その他	状況	・ 若い人同士の話し合いの場がない ・ 独身者が多い、居場所がわからない ・ 情性で肅々と続ける雰囲気 ・ 高齢者に叱られることが多い ・ 一度入ったら抜けられない雰囲気 ・ 手伝ってもらおう際の指示役が少ない	・ そもそも若者世代は働いているので、「この世代は参加しにくい」という前提で考えることも必要ではないか
	工夫	・ 若者の意見を受け入れる、見守る ・ 飲み会などを行って横のつながりを強くする、顔見知りを増やす ・ あいさつ運動 ・ 組長が後継者を探す意識を持つ ・ 前会長が集まって話をする場を設ける	

今回のテーマ（新しくつくる、これまでを活かす）

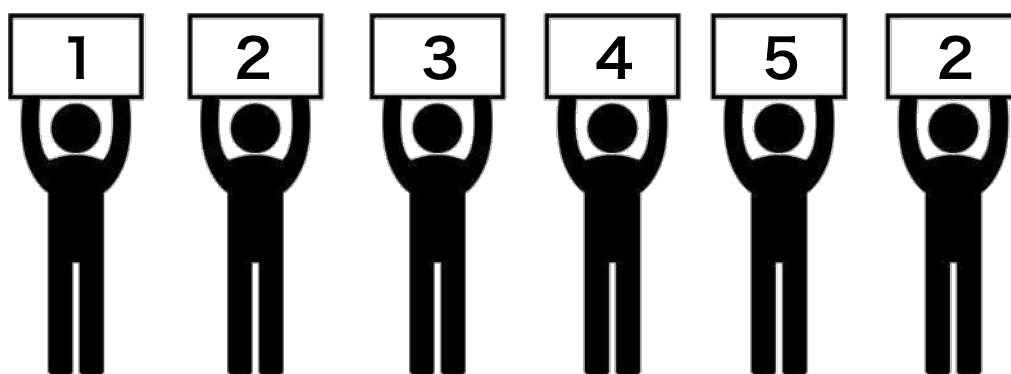
A	若者が地域を知るための入り口や広報のあり方を具体的に考える！
B	若者と地域が一緒に楽しめる会議のあり方やルールを具体的に考える！
C	若者が地域と混ざり合うための交流の場を具体的に考える！
D	その他、この解決策を考えたい！

今回のテーマ（新しくつくる、これまでを活かす）

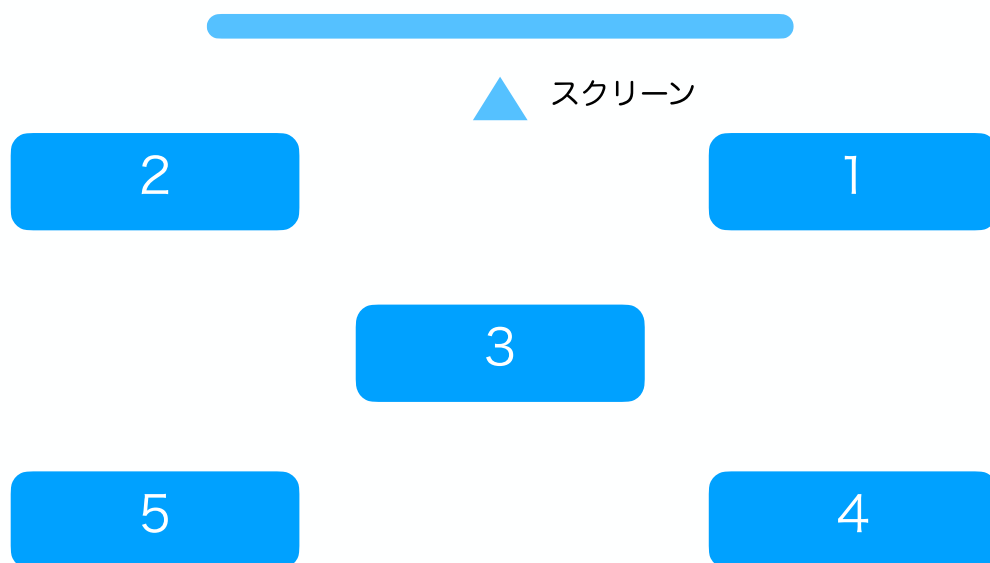
今座っているテーブルの中で

1～5の番号を1人ずつにふってください

※なるべく偏りの出ないようにお願いします



決められた数字ごとに席を移動してください



選んだ1～5のテーブルにご移動をお願いします！
テーブルには1～5の番号の紙をおいています

プロジェクトシート

プロジェクトシート	
テーマ	
具体的な 取り組みや アイデア ※複数でも可	
必要なもの 応援	
連携したい 人・団体	
まずここから 行動する	

プロジェクトシート

プロジェクトシート（参考例）	
テーマ	若者が地域を知るための入り口や広報のあり方を具体的に考える！
具体的な 取り組みや アイデア ※複数でも可	例）広報を考える若者と現役の集まりをつくる LINEを使った電子掲示板 転居してきた人 案内パンフレットや懇親ツアー 等
必要なもの の 応援	例）既存の広報誌の活用 デザインを手書きも交える 予算〇円くらい 等
連携したい 人・団体	例）作成チームとの連携 学校組織での配布依頼の強化 等
まずここから 行動する	例）来月の作成委員会に〇〇さんと〇〇さんに声をかけて参加してもらおう LINEの勉強会をする

今回もよりよい話し合いのために

よりよい話し合いのためお願い

① さまざまな意見がでることを全体で歓迎

それは違う！ → その発想はなかったな

② 誰かのお話に乗っかっての一言歓迎

×違う意見を言わなければならない？

③ 自分の話は簡潔にサクサクと！

④ 今日の話はここだけ（肩書を忘れる）

×あの意見よかったからやってよ

中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ではまず話し合いのウォーミングアップ

お手元のA4サイズの手紙

お名前	所属
わたしが選んだテーマは○ なんでこのテーマを選びましたか？	